

## 令和6年度 第3回多摩市子ども・子育て会議 会議録

日時	令和6年9月18日(水) 18:30~20:00
場所	多摩市役所 西1・2会議室
参加者	加藤委員(会長)、立花委員(副会長)、西委員、山口委員、春田委員、西川委員、佐藤(真)委員、森田委員、野坂委員、早川委員、三井委員、佐藤(妙)委員、荒井委員、木下委員 (欠席) 廉田委員

### 1. 開会

- 会長 : 令和6年度第3回多摩市子ども・子育て会議を始めます。事務局より出席者の報告をお願いします。
- 事務局 : 本日の出席者は、15名中14名です。過半数を超えているため、多摩市子ども・子育て会議設置条例第7条の規定により会議は成立します。
- 会長 : それでは次第に沿って進めます。はじめに、事務局より資料の確認をお願いします。

(事務局より、配布資料の確認)

### 2. 報告

#### 【審議事項】

- ① (仮称) 多摩市子ども・子育てに関する計画骨子(案)について  
(子ども・若者政策課長より審議事項の説明)

委員 : こども大綱に則した計画策定となると、どの市の計画も同じようなスタイルになってしまうかと思うが、もっと多摩市らしさを出してもよいのではないか。特に第4章「施策の方向」の中に、多摩市らしさをはっきり分かり取組みやすいような施策等が入ってくると、「多摩市」の計画だと分かるのではないか。例えば、「田畑が残っていること」や「昔ながらの文化が残っていること」、「適度な人口を抱えているため活性化しやすい街である」といった、多摩市の良さを計画に載せていけると特長のある計画となるのではないかと思う。

会長 : この計画を策定する過程で、子ども・若者から聴取した意見を入れながら作りあ

げてきたと示す部分もあるとよいのではないか。「居場所」や「相談機関の充実」についても、多摩市の長が出せるように、子ども・若者の意見をどのように計画に反映させたかを、計画に掲載するとよいのではないか。

委員 : 多摩市には「ほほえみの会」という戦争未亡人の会から始まったひとり親の会があり、現在も市が補助しているのではないかと思う。そのようなひとり親に対する支援を多摩市は長く続けてきたという歴史等についても掲載するとよいのではないか。

→事務局 : 市で補助等を行っているかどうか確認したいと思う。ひとり親当事者にとっては心強い会だと捉えている。そのような内容も掲載していくことで、より深みのある計画となるのではないかと感じた。

委員 : 子若条例では若者の活躍を規定しているが、今回の計画では困難を抱えている若者に対しての福祉的な部分が多いと感じた。日ごろから支援を必要としていない若者が活躍できるようなイベント等の場があるとよいのではないか。やはり都心で働いているとなると、多摩市への想いが薄くなってしまう。多摩市で活躍できる場所があると多摩市に魅力を感じて、住みたいと思えるようになるのではないかと感じる。

委員 : 現在児童手当の振込先は、世帯の中で一番収入が多い人となっている。収入が多い方がその家庭を養っているわけではない。両親どちらの口座でも振り込まれるような仕組みでないと、助成金をちゃんと活用できない家庭もあると思う。東京都の018サポート事業のように申請すればその口座に振り込まれるような仕組みに変えていただきたい。

→事務局 : 児童手当は国の事業ということもあり、非常に細かく規定が設けられているため、東京都の事業のように柔軟に対応することが難しい部分がある。事務を行っている中では、必ずしも各家庭の事情に合った振込先でないこともあることは認識している。機会があれば、国にもそのような意見があったとことを伝えていきたいと思う。

委員 : 今後若者世代を中心に施策を考えていく中で、子ども未来会議のような場に出たくないという若者もいるのではないかと思う。基本理念で、「全ての子どもや若者が」と謳っている以上は、支援の手が届きづらい若者を含め、「全ての」若者にフォーカスして欲しいと思う。

会長 : 重点事業においては、子ども・若者目線での指標や、事業者・提供者の目線での

指標など多岐に渡る。一方で、本計画は子若条例に基づく計画であり、子ども・若者主体と謳っている中では、例えば、「地域における活動への参加割合」やニーズ調査で課題とした部分をこれだけ減らしていくなど、子ども・若者、子育て当事者への状態をどのように良くしていくのかといった視点での指標があるとよいと思う。

委員 : 「審議資料 1-7」 ページ 16、「児童虐待に関する予防・相談」の目標値に関して、令和 5 年度実績の 34.4% に対し、令和 11 年度は「減少」といった指標となっている。どのように数値化していくかは難しいところではあると思うが、「減少」といった指標ではなく、具体的な数値で出すとよいのではないか。また、放課後子ども教室の目標値が延参加者数に対して、こども誰でも通園制度の目標値は実施施設数となっている。利用者数が多くなるからよい、といったことではないが、利用者からのニーズがあれば、園を増やす等の方向性になるため、利用者数等の数字を目標値とする方がよいのではないか。

会長 : 令和 5 年度の実績に対して、令和 11 年度の目標値を比較するといった構成になっている。目標値が 5 年後ということを考えてときに、5 年後の指標の数値が適切かどうか整理する必要がある。

副会長 : 「審議資料 1-7」 ページ 16、「児童虐待に関する予防・相談」の目標値に関して、「減少」となっているが、健やか親子 21 の成育医療等基本方針等、国で目標値を定めている部分は、そこを参考にして、多摩市はその数値よりも高めていくといった方向性にするのもよいのではないか。

委員 : 「審議資料 1-7」 ページ 23、「施策(2) 障がい児・医療的ケア児等への支援」に関し、目標値として医療的ケア児が実際に入所している施設数を設定しないのか。

→事務局 : 医療的ケア児の支援については、多角的な支援が行えるよう「医療的ケア児(者)連携推進協議会」を重点事業としており、関連事業に保育所や学童クラブにおける医療的ケア児の受入れを設定しているところである。医療的ケア児として入所した児童に適切な支援を行うことが重要であるため、医療的ケア児が入所している施設数を目標に設定する考えはない。

委員 : 「審議資料 1-7」 ページ 35、重点事業となっている「スクールカウンセラー/スクールソーシャルワーカーの活用」について、目標値は、令和 5 年度から令和 11 年度までの延べ数なのか、それとも単年度の延べ数なのか

→事務局 : 単年度の延べ数である。

- 委員 : スクールソーシャルワーカーの勤務実態からすると、今いる人材を最大限活用している状況である。重点事業としてスクールソーシャルワーカー相談対応件数(連携含)について、令和5年度の実績が1,146件であり、令和11年度の目標値として3,500件と設定されている。それだけきめ細かい支援を行っていくということ自体は良いが、その相談件数を達成するためにはかなりのマンパワーが必要となってくる。すぐに人材等を確保することは難しいが、どのように達成していくかは、学校側も考える必要があると感じた。人の配置等にも力を貸していただけると、目標の達成に近づけるとともに困難を抱えた子どもたちへより手厚い支援が行えるのではないかと感じた。
- 事務局 : 本事業の相談件数は、教育委員会で定めた目標であるが、現場の先生よりそのような意見があったことは、今後の会議等で教育委員会にも伝える。現在のマンパワーで目標を達成することは現実的ではないと感じる。現場からもマンパワーが必要だという声を上げていただけるとよい。
- 委員 : 相談件数が増えることは良い面も悪い面もあり、「関係機関がしっかり連携をすることで目標を達成していく」ということも記載していただけると内容に説得力が出てくるのではないかと。
- 事務局 : 教育委員会は、現状の体制では子どもたちの声を拾い切れていないとの認識を持っていると思われる。拾えていない声を十分に聴いていかなければならないという意識からこのような目標設定になっていると考える。校長会等でも意見を上げていただければと思う。
- 委員 : 重点事業の目標値の見せ方を、目標件数に対する解決した数にすると分かりやすいのではないかと。
- 委員 : 実績に対して、どのような趣旨で目標値を設定しているのか等の表現があると分かりやすいのではないかと。新規の相談件数なのか、継続相談の件数なのかで捉え方が変わってくる。
- 委員 : 教育委員会の管轄と違う部分があるため、難しいことは承知している。  
スクールソーシャルワーカー等の相談件数を減らすために多摩市は独自に子若条例を作ったのではないかと考える。子若条例が広まっていくにつれて、そのような相談件数が減っていくのではないかと。「審議資料1-7」ページ13、子若条例の認知度について、もっと重点的に進めていかないと根本的に前進していかないのではないかと。子若条例を市内の企業等の力も借りつつ、多摩市独自の魅力として打ち出していくことが必要だと感じる。  
支援を必要とはしていないが、何となくうだつが上がらない生活をしていると感じている子ども・若者の活躍の場を用意することで、もっと楽しいと思える市になるのではないかと。たまこどもフェスは楽しかったが、イベント自体は幼児向けだったため、小中学

生は参加しづらいという話も聞いた。今後も続けるのであれば、子若条例で規定する世代が楽しめるイベントになるとよいのではないか。

委員 : 保護者の方からは不登校対策として、フリースクール作らないのか等の声も聞いたことがある。どのような形であれ、不登校の子どもたちが通えるような場所があればと思う。

～次期計画の名称について～

委員 : 「多摩市“の”子ども・若者・まんなかプラン」のように、助詞の「の」をつけると、親しみやすさが出てよいのではないか。

委員 : 「子ども・若者・いきいきプラン」の「いきいき」は高齢者向けの名称のように感じてしまうので、子ども・若者向けであればもっと元気なものがよいと感じた。

委員 : 「子ども・若者・まんなかプラン」は「子ども・若者」が「まんなか」となるため、高齢者の方々からするとよいイメージを持たないのではないか。「子ども・若者・まんなか」とするのであれば、言葉だけで終わりにせず、しっかりと施策を実行していく必要がある。総合的に考えると「子ども・子育て・若者プラン」がよい。

**【報告事項】**

**②「たまこどもフェス2024」の開催結果について（報告）**

（子ども・若者政策課長より報告事項の説明）

委員 : 予想を超える来場者があり、非常によかった。ベビーカーの数が多く、来年度以降はその対策もしっかり考える必要がある。

委員 : 暑い中であつたが、多くの来場者がありよかった。会場の通路が狭く、ベビーカーが通りづらいと感じたが、市内外の方に多摩市の充実した子育てサービスをPRすることを考えると、永山エリアでの開催がよいと感じた。  
例えば多摩センターのパルテノン多摩での開催となると、ベビーカーを押した子育て世代の方からすると若干距離があるため、駅からの導線を考慮しても、永山エリアがよいと考える。また、開催時期は、新入園児の入園時期を考慮すると、8月頃の開催がよいと考える。

委員 : 折り畳めないようになっているベビーカーもあるため、置く場所を考えていく必要がある。趣旨として、幼稚園・保育園の先生に話を聞く等もあったが、在園児や卒園児等と話す場となってしまった。今年度のフェスでは、遊びに重点を置いていたが、もう少し説明会に重点を置いてもよかったかもしれない。

### 3. 閉会